

■ VISTA 7 ユーザーレポート

中部日本放送株式会社 様

VISTA 7

MA 室に VISTA 7 を採用



■ CBC MA 室

中部日本放送株式会社様は、MA 室を内装を含めて全面的に更新、5.1 サラウンドの番組制作にも対応できる環境を構築しました。メインコンソールには、同局では初のSTUDERデジタル卓である VISTA 7 を採用しました。



中部日本放送株式会社
技術局 制作技術部
亀井 大策

MA 室の更新について

今回の更新の主眼は、最近主流の DAW の導入、DAW とは独立したデジタルミキサーの採用、音響内装を考慮したオペレーションルームでありました。これまで CBC ではテープベースのマルチレコーダーを使用し、オールロケのバラエティー番組からスタジオの公開録音番組、年に数回ですがクラシック・コンサートの MA などを行ってきました。他局でも同じだと思いますが、実際の作業としては番組収録後に映像編集作業を経て MA 室に来る訳で、OA まで非常にタイト

な時間の中での作業になり、あまり時間を掛けられない環境にあります。そんな中、テープベースで行う MA 作業の時間的限界を感じており、PC ベースの DAW を導入することで作業時間の短縮と、よりきめ細かい MA 作業の実現を目指しました。

DAW と VISTA 7

導入機種としては、CBC の関連会社 CBC クリエイションで導入実績のある ProTools を採用しました。PC ベースの DAW に不慣れな我々には近くに ProTools のオペレーションに慣れた人間がいるということは採用の大きなファクターになりました。またミキサーは PC ベースの DAW の安定性を考慮して、あえて DAW とは独立したものと



■ディレクター席からの眺め



■マシンコントロールを考慮し卓のセンターをオフセット



■ミキサー氏の背後にエフェクターラックを設置



■広く快適なアナブース

し、他局での導入実績の豊富なスチューダーの VISTA 7にしました。このミキサーはこれまで我々が使用してきたデジタルミキサーとは操作性が非常に異なっており、導入初期にはオペレーションの慣れにかなり不安があったのですが、実際にMA作業を進めていくと使用したい機能が手の届く範囲に集中しており、MAオペレーションに即した視認性の高いパネル面であることを実感しました。またVISTA 7では各オペレーターのコンフィギュレーションを記憶させておくことが出来るのでMA担当者の入れ替わりが頻発する当社に於いては従来に比べて作業効率の大幅UPにも繋がっています。結果として最初の心配とは裏腹にオペレーター一同、今回導入したVISTA 7には大満足しています。

音響内装の重要性を実感

内装に関しては初めてSONAさんに依頼しました。従来CBCでは建物の内装は総務部が担当しており音声技術がリクエストを出すことはほとんどありませんでしたが、今回のMA室はサラウンド対応ということもあり、音声技術が少し拘った内装にしたい、他局の皆さんにお見せしても恥ずかしくないMA室にしたいという思いがありました。そこでレコーディングスタジオ等で実績豊富なSONAさんに内装関連をお任せすることになりました。

実際出来上がって見ると今までのMAルームとの音の違いは一目瞭然で、作業空間に一步入った時の静けさ、実際に音を出した時にそこに人が居るかのような音像定位、今までかき消さ

れて気にもしなかった微細な音の違いまで判ってしまふ、本当に素晴らしい音響空間に仕上がっていました。音響的な部分だけでなく室の見た目もダークブルーを中心にした、長時間作業にも疲れなないデザインになっており、皆さんにも是非見て頂きたいMA室になっております。

まとめ

現段階では、日々の業務を通してVISTA 7、Protocols等の操作を覚えているという状態で、「全ての機能を使い切ってMAを行っています」とはとても言えませんが、DAWとデジタルミキサーの組み合わせは、従来までは見落としていたり、諦めていた音声編集を可能にしてくれており、MA作業の可能性を大いに広げてくれています。